

＜建達会 暴力革命陰謀事件＞

日独伊三国同盟の国際的ファッショ勢力が第2次世界大戦を起こして、軍国主義日本が断末魔的発作を始めアジア大陸の戦火を太平洋戦争で発展させる前夜である1940年12月24日、警視庁は日本にいる朝鮮アナキスト残存勢力を殲滅するため「建達会」のいわゆる「暴力革命陰謀事件」を検挙した。そのことは、アナ陣営撲滅の第三打であった。この事件の事実審理内容は次のとおりである。

東京にいる朝鮮人アナキスト達は、以前に日本人アナキスト機関である全国労働組合自由連合会に加入し、極東労働組合の後身 朝鮮一般労働組合で強力な運動を展開してきたのであるが、以前に述べたような情勢の悪化で、表面的合法活動が壁につき当たるや1938年8月に一担解散した。この団体の直接行動派 文成勲は、姑息な運動を清算して衰えて行く形勢を挽回する画期的転機を捉えようとしたのである。彼は、中日戦争が長期化してついに第2次世界大戦に拡大するに従い、軍国主義日本と国際的ファッショ陣営の敗北は既定事実だと判断して、1940年3月頃から組織の再建に積極的活動を始めた。文成

熱、李宗文、鄭甲振らは東京府本所緑町の鄭の自宅に集まり情勢を分析した後、日本の敗戦に際し革命的民衆蜂起によりファシズム体制を打倒する組織に着手することに決議した。そして1940年5月下旬、李宗文、文成勲、鄭甲振らは栃木県監谷郡栗山■村にある鬼怒川水力発電所工事場、浜本飯場(合宿所)に移住し労働者として就業した。彼らは数回会合し、次のような計画を立てた。

1. 東京にいる同志達をこの工事場に集結させること
2. 同志達の集結は人夫募集に偽装すること
3. 労賃の一部を運動資金に蓄積すること

このような計画に従い、李宗文、文成勲、鄭甲振は1941年6月9日、金錫永、李宗植、李圭旭、金莞、金東論、李圭植らを工事場に来るようにした。下柴宇も交渉対象になったが東京を離れられぬ事情があった。

工事場に移住させた同志達も再び厳格な人物審査を経由して適格者を選定した後、これらに対しては無政府共産社会建設のための蜂起計画を知らせ実行に対する盟約をさせた。李圭旭については当初計画していた酒店設備が物質関係で手を離せなくなったので、一担東京に帰るようにした。

蜂起計画に加盟した同志達は、同年6月11日、浜本飯場近付屋外で秘密会合を開いて団体を「建連会」と定めて、次のような部署と計画を決定した。建連会という名称の建は「ファシスト組織」再建を、連は目的達成を意味するものである。

一、部署

書記部	文成勲
宣伝部	李宗文、金錫永、鄭甲振、金東論
財政部	李宗植

二、蜂起計画(襲撃目標)

1. 宮城・二重橋を襲撃し天皇制を打倒する。
2. 参謀本部、陸海軍両相を襲撃し、軍首脳部の活動を麻痺させる。
3. 内務省、警視庁を襲撃し、警察力を弱くさせる。
4. 大蔵省、日本銀行を襲撃し、経済を困乱におとしめる。

三、行動担当責任者

宮城	文成勲
参謀本部	李宗植
内務省	鄭甲振
日本銀行	李宗文

四、行動時期

1941年3~4月には日本国内の物資欠乏が顕著に現われ、結局一般大衆の食糧

騒動が街頭で起こることと予想する。大略この時期を狙い準備を進行することと決定した。

五、街頭で一般大衆のデモを煽動する一方、直接行動隊は各分担目標を襲撃すること。連絡の本拠は東京府本所区緑町にある鄭甲振の家にする。

六、武器及び資金

資金は文成熟、鄭甲振、李宗植、金錫永、李宗文が分担。武器は、李宗文が知人を通して爆弾を手して、栗山工場でダイナミートを盗み出すこととした。拳銃は李宗植が満州に行き入手して来るようにした。

以上のような計画をたてたが、李宗文が入手することとした爆弾は火薬工場の坂本という日本人との連絡がとれず失敗した。ダイナミート数個は栗山工場で盗み、李宗文、鄭甲振の責任のもし隠匿しておいた。しかし逮捕される直前に運河に捨てた。

1940年12月24日この事件が発覚し、次のような関係者が逮捕されて1941年11月4日に検事局に送致された。

文成熟	42才	平北宣川郡南面 三省洞 803	自由労働者
李宗文	29才	金南堅岩郡 三湖面 龍岩里 1008	会社員
鄭甲振	28才	忠南論山郡 江景邑 緑町 208	土工夫
李宗植	31才	咸北鏡城郡 鏡城面 一里洞 19	自由労働者
金東輪	35才	京城府 橋北洞 16-2	土工夫
金錫永	43才	平北昌城郡 昌城面 雲坪洞	自由労働者
姜相春	45才	全北求礼郡 龍方面 新智里	土工夫
李徳秀	37才	慶南固城郡 九万里 華漢里 286	古物商
下栄宇	39才	慶南陝川郡 草溪面 草溪里 224	土工夫
李圭旭	42才	慶北 泉郡 龍門面上 金谷里 246	土工夫
金東燮	47才	京城府 黄金町 5-165	自由労働者
金礼鳳	40才	咸南三水郡 新波面 新加乙波里 寺洞	“

〈学生運動〉

1926年東京留学生学友会総会でアナ系対ボル系学生の間に行“和”面での論争が展開され主導権をめぐり、勢力争いが起った。このようにして両系学生は互いに決別して各々別個の団体に分立することになった。こうして、安鍾浩、崔学桂、柳致真らはアナキズムを指向する学生団体として「学生連盟」を組織して、事務所を淀橋区上落合1の299番地に置いた。しかし賃賃料問題で、1935年2月に移転費を受け取って空け渡し、一時東興労組本部に移ったが、8月10日牛込区河田町17番地に定着した。ところが連盟員李東淳、洪性煥両同志は5月中旬から事務所移転費を強要したという罪目で逮捕され、李東淳は日本無

政府共産党事件で起訴した。

1935年2月18日に発生した京城府高等普通学校、学生退学処分と普成専門学校入学試験合格者取消しという2つの問題に対し、東京アナキスト団体などは学校当局の似而非教育的態度を攻撃した。合わせて東亜日報がこの事実を歪曲、隠蔽したことを非難した。同年8月下旬には、東京アナキスト団体の名で「教育界の腐敗、言論界のみにくいやしい態度を聞いて、万天下に国家団体またはこれらに関係ある個人の政策方針等に関し、その誤謬や間違いを大衆の前で討議または糾弾すること」という檄文を国内外及び東京各団体に発送した。しかし、その内容が過激不隠だし、同月20日付で分布禁止した。

東京朝鮮人留学生学友会は1935年2月に解散したが、各大学別同窓会は以前と変わらず存続した。朝鮮民族の言語と文字、はたはだしは姓名までも拘束し伝統的民族文化を完全に抹殺しようとする、日帝の苛酷な植民地統治政策は、満州事変で中日戦争に発展する彼らの大陸侵略と共に、加えて一層極端となった。彼らの野蛮な圧迫が加重するほど、被圧迫者の抵抗もまた更に強靱なものとならなければならなかった。特にこの抵抗は日帝の首都東京で、真正面からの抗議として現われていた。各大学学生達は同窓会などの公式会で朝鮮語使用を固守し、日帝の不当で苛酷な文化政策を露骨に攻撃することをためらわなかった。このようにして、各大学同窓会は、続けざまに被検者を出していた。

1939年12月、早稲田大学大隈会館で開催した年次同窓会席上で展開した会員達の討議過程は、その最も代表的な事例である。崔文煥、洪宗漢、金貞珠、河岐洛らは仮借なく日帝の植民地政策を批判しながら、当局の猛省を促した。閉会後、学生達が解散し玄関を出ようとするや、待機していた10余名の刑事隊が河岐洛、金貞珠、洪宗漢、李末鳳（相雲）、柳鳳謙、崔文煥らを拘束した。

金貞珠らは1ヶ月だけで釈放され、河岐洛は三ヶ月間警視庁の取調を受けた。その背後関係を問われたためである。当時河岐洛は、韓何然、李時雨、河璟尚、崔洛鍾などのアナキストと密接な連絡を持ちながら、早大と東京大学の学生達で社会主義研究グループを作ってアナキズム宣伝活動をしていた。

東京警視庁記録は「1939年現在 朝鮮人留学生の状況」に関し次のように報告している。

（前略）各地で朝鮮人の策動

先般在留朝鮮人学生に対し、同窓会などの集合にあって朝鮮語の使用を禁止させて、日本語の使用を促したところ、一部民族的偏見に固執した層にあってはこれを当局の朝鮮文化の弾圧だとし、特に東京及び京都に在留する朝鮮人学生のうちには、相当に頑強な反抗的言動を敢行する者がいて、そのような種類の分子の策動は許諾し難い実情であった。

すなわち本年中にあって次のように、その種類の言動であった。

(1) 早稲田大学 朝鮮人留学生 同窓会では 12月4日 学校内大隈会館で本年も卒業生の送別会を開催したところ、これに前般 警視庁では黙然としない事があり注意していたところであるが、同席上で感想談を聞く段になるや、河岐洛 外 5名の論者は次の記録のとおり「民族文化の向上保持に臨んで」云々などを強調し、以上同窓会内にあり、民族運動を煽動して来た一派の主張を露骨に吐露したので、即日、河岐洛 外 5名を検挙して取調べし、彼ら一党の策動が判明した。

(2) 河岐洛は昨年1月 挙行の東京各大学専門学校 朝鮮学生連合 卒業生送別会で糾合し、この反対運動を画策し、昨年6月中に、淀橋区戸塚町所在 喫茶店 松月堂で当時早大文学部 聴講生(女専教員)韓 稚振の歓迎会に依頼し、早大文学部生 金彦丙、李趾虎、鄭 煥旭、尹政炳を勧誘、合同して以上の問題を討議した結果、朝鮮民族文化保持の見地から朝鮮語使用禁止問題に関する学生の世論を喚起させることとして以来、検挙に至るまで再三民族文化擁護、哲学研究にかつて同志糾合に努力して来た事実が判明した。そこで警視庁では本人らに対し厳重な訓戒した結果、覚悟したところあり、一担釈放した。

左記

本籍 慶尚南道 ハムヤン郡 マンウ邑 タンボン里 ホジュー 河宗鉉の三息
住所 東京市 淀橋区 戸塚町 1の57 改明館内 早稲田大学 文学部 一年
河岐洛 または 河昌鉉 明治45年1月26日生

論旨

朝鮮民族の文化を擁護しなければならぬ知識人は文化を指導する任務を、持っている。現在の様な未分化の時代で、再び新しい原理を持って文化を創造することには、分明に困難がある。文化指導には指導方法としての世界観、或は歴史観がある。文明の進歩は単純から複雑への方角をとっている。ラテン文化が各々民族の国民文化に分裂して行、た。このように再び国民文化を郷土文化へと分化させ、各々の地方の個性を発揮するようにする原理のもと、文化人は民族文化を擁護し、……。 (下略)

この論旨はローマ帝国で近代ヨーロッパの各民族国家と分化し、ラテン文化が各民族文化へと分化したところに、歴史の進歩が記録されたということを根拠として、民族文化の特殊性と自立性を擁護しものである。この主張は権力の地方分散と自治的各地方の自由連合というアナキズムの原理に根拠を置いていた。

早大外にも京都大、同志社大、東京農大などで全く同じ抵抗運動が継続した。

この他に1941年2月に検挙した「アナキスト中学生事件」がある。1939年1月千葉県佐倉町明倫中学校 5年生 孫源植(21才)朴源祐(22才)崔文桓(24才)などは東京府麻布区森本館に居住した金末圭の感化を受けて、アナキズム研究グループ活動をしたが、日警に検挙されたものである。

P 11 ~ 12 に関して。純正アナキズムは決して労働運動を軽視したり無視しなかった。むしろサンジカリストの方が、輸入した西欧の思想を形式的に適応し、労働Mの自由な発展を妨げたといえる。

岩佐や八友は労働Mの改良主義的変質に対し警告を発したのである。

★ 連絡先

〒607 京都市山科区 御陵 原西町 17-19 東山荘 1F 3号
田代 淳

— ★ — ★ — ★ — ★ — ★ — ★ — ★ — ★ —
。無政府共産の水平社会を建設せよ。

。無政府 反日武装闘争の圧倒的爆発で日本国家を包囲殲滅
せよ。

。すべての強権、とりわけ赤色ファシズムを撲滅せよ。

。直接行動の復権、そしてあらゆる生活の場で武装蜂
起を準備せよ

。左右の物盗り労働運動を排撃し、労働者は革命に
進撃せよ

。水平社会に向け 共同体の芽を準備せよ

— ★ — ★ — ★ — ★ — ★ — ★ — ★ — ★ —
東アジア反日武装戦線への極刑攻撃を許すは

荒井まり子の保釈を勝ち取る

斎藤戦士の復讐戦を継続せよ

— ★ — ★ — ★ — ★ — ★ — ★ — ★ — ★ —
戦う無政府主義者の新聞「黒連」を講読しよう。

申し込み先 東京都新宿区新宿1丁目19-4 酒井ビル3F

三月社 気付 日本黒色連盟